



山嵐雪
楚忠
結衣

中村俊定文庫
文庫 18
108





千代姫

初煉

今朝よわを編むとくく一もあは

幽山

初秋の風内よりやわらふよ

三翁

もよみの大あきしや姫の風

帆音

七夕

涼草れうかれあわや女七夕

才磨

早ふもやうに渡地の風つらり

其角



いし合ふ糸妹とせん侍女席

嵐雪

桐

花のちり桐の糸糸うりしはく地

山川

舞

胡良よとて人の落のつらうれ

大坂 来山

新島よ二夜泣く糸の別世

秀和

新顔や片底たうき園まへ

百里

新白を給ふ写するは世のれ

破笠

禪 ぞくきく舞うとれ恥を新
新顔や誰うまもくくくく色

杜捨

魂糸

きくく桐とておの洞もあつて

嵐雪

魂まわり味やふふのこのまは

湖水

魂柳を面白くしおのりひか

百里

ちまは十々とうさうれ物をもとらうす
母乃とてふ給すもいさなを舞きた

其三 百葉を折けた

若葉キ白葉シラを折けたの石のたぐひは

其四 名所の葉

白葉の福倉やすくも二枚り谷ヤ

其五 喜れしけのまじりやうりまのすま

戸のたぐひ葉をそへ乃ちうりま

其六 琴

琴の調を葉のうりまつくは離れ

其七 棊

葉カを又棊よかひしやん

其八 書

書を抽キルを葉よかひし葉の心

其九 益

葉よかひの益よかひし益の心

鹿

福られくはれよ麻のま向か 不障

田家

藤のわやと衣麻追つるを

桐雨

巳巳九月十三夜游园中十三唱

其一

素堂

もや申好の月ハゆるゆると夕夕ハ夕夕
さや乃さりわきれくをさるる
ろの空にさきこねやしてさるる月
乃いさささるる

もや申好の月ハゆるゆると夕夕ハ夕夕

其二 寄菊

もや申好の月ハゆるゆると夕夕ハ夕夕

其三 寄茶

もや申好の月ハゆるゆると夕夕ハ夕夕

其四

もや申好の月ハゆるゆると夕夕ハ夕夕

其五 寄茶

二月のちかき雪ふりよる
雪ふりよる
雪ふりよる

月九ふあまれりききききききき

其六

畠中霜を待風あつ試

筆ととととと

みんよけききききききき

其七

同隠相求とらとらと

あくの木乃あく鳥な〜月と我

其八 寄薄

薩鉄のいよ〜ぬ月のとほれ

其九 寄薙

な〜も月よ遠か〜れ

ちよあ〜あ〜あ〜あ〜

其十

一水一月千水千月とよ吉とに
すめりくゝあかいろつる月を回

袖に下にあはる衣月幾つ

其十一 答

月一ツ柳らり枝らもれりあ

其十二 寄芭蕉翁

さよふらしむを彼庵の月を
あしきくうの人あつりし

傍ありよこしよこし月の
らり帰てよさの物もさる
らよらと流しきし
又月の多えとて床をわね
下はららるるをさるる月
乃ふくむらりて影のわら
あはれしとあはれし
つる月よあはれやうら

其十三

園より瑞——

月夜を つきく 糸 籠 呼 月 夜

礎

衣 着 ぬ や 靴 下 りの 鳥 淋 菊 鈴

砧 打 人 も 裸 々 ぐ ぐ ぐ 砧 打 鋤 立

茅 の 屋 瓦 軒 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ 立 志

槌 着 も 敷 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ 山 川

ま っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ 氷 花

我 子 に 抑 子 七 っ っ っ っ っ っ 巴 風

鼓 や っ 砧 や っ 多 々 々 々 々 々 仙 化

野分

お ち ろ 女 や 船 夫 に じ ゃ っ っ っ っ っ っ 夕 の

湯 け っ っ の お を 送 り の っ っ っ 東 眺

お ち ろ 女 や ち ゃ っ っ っ っ っ っ 立 志

っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ 一 笑

紅葉 新巻

小男にかきつけたりや下ももり 秀和

小庭よりおきふらんくまらうらさか 八木

片枝の悪方あるくももりか 百花

暖縁乃帰子

不もつたよおきふはげり二月橋 壺水

蕨の自にやそよもはらふ小きか 嵐惠

薄

くつし〜 雲もも初さるる外 了の

葉の香もき〜てれんる藤うら ^{大坂} 伴自

伊路の園は終り〜けりか雲の

地もあやよも甲り〜らたに雲

橋のさうりさりあれく 宗を法師

橋のうらにせ〜ら〜ら〜ら〜ら

これ〜れお流のま〜ら〜ら〜ら

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

角のやりやその神のりたは 真角

わらわらくらのふし

くはくらの二見へわれやくらう 芭蕉

出

秋の都よ今くはるや 裸山 琴凡

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

くはくらのやき大ようく 庚の中 舟竹

夕照

晴^{上ホリ}鈴乃^カ輝^{ホリ}を^カ抱^カゆる西^カ日^カの^カ影^カ
 潮^カの^カ音^カが^カ水^カの^カ音^カに^カ似^カたり^カて^カく
 雲^カの^カ影^カを^カ隔^カつ^カて^カく^カみ^カく
 水^カの^カ音^カは^カ水^カの^カ音^カに^カ似^カたり^カて^カく
 入^カ月^カ乃^カ影^カを^カ隔^カつ^カて^カく^カみ^カく
 紫^カの^カ影^カを^カ隔^カつ^カて^カく^カみ^カく
 山^カの^カ影^カを^カ隔^カつ^カて^カく^カみ^カく

沾荷

芭蕉

露沾

沾荷

芭蕉

露沾

沾荷

花^カと^カい^カも^カと^カは^カな^カら^カず^カに^カく^カ
 夕^カ雲^カあり^カり^カく^カも^カさ^カら^カず^カに^カく^カ
 白^カき^カ胡^カ蝶^カ乃^カ影^カを^カ隔^カつ^カて^カく^カみ^カく
 水^カの^カ音^カは^カ水^カの^カ音^カに^カ似^カたり^カて^カく
 風^カの^カ音^カは^カ風^カの^カ音^カに^カ似^カたり^カて^カく
 個^カの^カ影^カを^カ隔^カつ^カて^カく^カみ^カく
 水^カの^カ音^カは^カ水^カの^カ音^カに^カ似^カたり^カて^カく
 棒^カの^カ影^カを^カ隔^カつ^カて^カく^カみ^カく

芭蕉

露沾

沾荷

芭蕉

露沾

沾荷

芭蕉

露沾

流つてはしりし 義の教しけ

沾荷

月つて乃己う 砧や鳴あそん

芭蕉

字中 葎しふれ色多しし先

嵐雪

稲妻

古すれ稲妻とすも 續りれ

立吟

つりらまると稲よ 響りれ 洞あふ

鋤立

稲妻あれ 母よまゝある 狐うれ

伴叔

相撲

丁かじり 鯉場の名よまふ 伝わり

氷花

兄中を 侍とたふす かりけ

花蝶

投らまそ 禮して 遠くすまふ

立吟

病後

丁かじり ちりかひぬ 秋乃これ

尚白

踊 祇園

舞子文く 踊鳥乃 解白し

京 千之

稲妻よ 踊うれく 泣き外

月下

葉山子

かしこく葉馬こころ三徑三れ 調三所

ましこくとりよてささるかしこ 京水

るさるやはあまふあまあがし 呂洞

まのしーあ終のさだめかしこ 鋤立

秋の巻

癡カまぬく淋しや秋の人今何京 千春

まつさくしちる歩や秋のくれ 嵐雪

秋のくれあき房れほくらかん三 氷三花

けし三く三指三人かんく秋のありれ小 鋤立

七ク乃獨あさひや秋乃くれ 嵐尾

好乃くれらんくたけー三 月下

乃りく三乃三氣三の三乃三乃三集三の三乃三乃

かきく三立三く三れ三ま三に

がれくれ井もれ時のかきをん 舟竹

とらいく三土三産三孫三く三れ三ま三に三人三の

柿の葉山ささり葉のわらわら
ほしの、あまりけりといふい身ごとく

榎乃かきよし山乃木其香を嵐香

蕎麥 讀甲陽軍鑑

あゝさむらむらむの世をさふー京 去來

筒香

まきのほけりまきの朝露やそれの相る

同 新出のくりの煙 今もさうな
ほしむらむさむらむ

ふかやまを何そとりのぼろろト宅

ありのまの人の同そよの奥水山

初あゝり夕りに酔ぬ山路うれ卧萬

山家よ藤子あす侍りに

りまもに糶をさかん秋の房湖水

程さぬい

里れみと鼻たし一同

芳香くくく田にまう東重

草を復とりてわかくとちゆく時多
茶をと割りて時多あまるとにゆかきん
嵐雪

京へちかわり

町多あり馬もにたると何くろ
才磨

葉ふみの江千宮井志くれり
山川

江口ぬく

か〜〜〜れあくらにかせぬ時多引
京千之

折

燈の友や顔よかけあつて面
月下

い〜れく我はさ〜とち火燈小
字先

中〜や〜〜れ是〜る冬籠り
懐心

埋火や〜〜耳〜る嵐涼
百里

小舟と〜ふ〜よりされちり炭俵
和残

足袋

足袋と〜と〜〜痛〜水隔る女房丸
嵐雪

草足袋やあ〜〜むね〜〜
嵐尾

未枯

こが〜に吹御さけし 彦次外 疎木
 一丁に風や廿のころはせ 一有
 こ〜に膝立鶴乃いり外 桐雨
 未枯よ処杉白せりもれ名外 土鮮
 日ありわし〜りよさ〜と枯妙外 湖風
 うたつ〜もあ〜も冬れ山外 京 原水

十月雁

こが〜のころ〜も〜り〜外 百里
 十月乃風りん〜よ〜と〜外 言瀧

落葉

蕨川の水よ〜落葉れ〜外 三石
 楓よ〜落葉つ〜ぬ〜山外 東石
 落葉系杉系外捨り〜外 北鯤
 之次屑より〜外 其角
 落葉〜く〜外 吟水

落葉あつく色く此方の好うれ
狼乃吠か〜たる冬のや戸
支離馬す〜かねの衣
塚一つ枯残り〜形も〜
多〜と〜や〜ぬおの冬も立
山川 和賤 風洗 氷花 秋宗流

帰花

物す〜やあ〜が〜ろれか〜
杉風〜〜し〜ろれ山よ〜り〜
舟竹 鬼貫

や〜りあれコト〜
海草一の極い印〜
秀和 樗雲

雪

初雪や〜や〜
門乃雪白と〜
常しく〜ぬ板〜
ち〜〜に〜も〜
は〜し〜
山川 嵐雪 調柳 樗門 孤屋

白雲の海乃 霧のも 喰まけり 月下

はあゝとささやきにうきれくあまはけり 湖水

一風 袴のききもせ 糸一のき 北風

初雪の 白くはくわぬ 月病 峽水

初雪し 別下よあまもいざり 止行

霜 踏 至 堅 冰

初雪の 廣の角し 多かれし 紅雪

とこに雪もふ有まれ 柚子の雪 宇門

病 中

初雪れ 宇部ゆく 風の林 竹井

霰

あゝとささやきにうきれくあまはけり 峯白

霜

霜の 衣や 蟻のききもせ 古杉 風子

白くはくわぬ 月病の 峽水 達曙

うゝ 毎の 初雪の 強き 虎の

花のわらわら

吾も枯よ一花咲くや子しん外 呂洞

凍

田よりしき益船を氷外 沾徳

五蓋一門氷の上乃あそれり 倅丹住 青人

内海氷を氷乃いりり如形 立吟

玉音平に花をさすの二月り 作者 不知

水の隈りくあれや初る厚の 花蝶

古池乃波ちりり花屋氷 塙門

濁江も凍の白く水乃花 一口

とわくと氷のわ我少形くれ 塙門

海鼠

いふるふ海鼠うううく朝渚 露沾

海鼠冷らううううものお信連 嵐雪

蛸をねくみま

給んをる花よかこいひか 同

鮫

河豚^ト鮫^ヲよ^ク似^ト物^ト也

伊丹住
鬼貫

あまのこころ^ハ朝^ノあ^ハて

あまのれ^ハさ^リや^もる^る吾^レれ^鮫

山川

今^文よ^つて^くつ^く鮫^ノの^身

冰花

半醉半醒辭

祐成^翁を^吟時^々

曲水

とま^りの^そく^くさ^りま^り

鉄^カ鮫^ヲ乃^ハひ^ろり^とん^んゆ^く裏^下

鮫^ノ鎌^ヤあ^らむ^も男^波の^水あ^れ

衝

つ^らか^ら湯^ノま^りの^まり^の浦^らり

あ^まの^あま^りの^まり^のあ^まり^のあ^まり

息^イつ^けよ^くあ^まり^のあ^まり^のあ^まり

あ^まり^のあ^まり^のあ^まり^のあ^まり

水鳥

冰花

桐雨

菊匂

幽亭

水さのあゆみ程くもし山田のれ
きらうや天のあふる水鏡
鴛の来くおぼわさる小池す
まを厨人へはしし赤うら

水月

湖風
山川
尚白
秀泉

晴さくおきよし一冬の月
了もれおぼれ捨らるる月

雁附進き

樺雲
露入

歌まくものうき響の南也か
跡しきおきわさるぬれ對馬船
真賣を蹴く紅るやまきこ腰
近鳥れ一お迹り入りりし

夜興

子英
其角
桐雨
一蜂

はくまきく夜紅のたれさほい

葱

氷花

しや一ふれ題の忘る草

百花

臘八

遠く飢牛の胡麻喰ふをわが外

紅雪

冬の日のあまをいそいでわが

かみくもや我のいそいでる萱花桶

嵐雪

煤掃

武は我がや煤をいそいでる富高の

東順

すくもいそいでるあまをいそいでる

調柳

すく竹のすくもをいそいでるあまをいそいでる

菊峯

煤をいそいでるあまをいそいでるあまをいそいでる

月下

鉢扣

身を拾ふよ下をいそいでる雨の鉢扣

氷花

身を拾ふよ下をいそいでる雨の鉢扣

梅門

節季作

せよる後やまつ天をいそいでる山

山

衣配

衣をいそいでるあまをいそいでるあまをいそいでる

同

これらもまた身をさるすくたふは
嵐雪

つらつら

待軒よかゝらぬわらふ岩花賣
石花

もろくさ

冥々若鳥のわん紙小船くし
舟竹

むいつ

書うやもや柄杓の底の十字字
樗心

たんこ

わろ様程のちろひ子切くへん
琴風

うそつき

枯蓮のかゝるさかりー辻徳義
笠凸

せり

観ふ小飯飯もそそぬ春のとれ
幽亭

ろくさ

とらのあやかりのすきル下り坂
菊峯

こいもろす

下
硯玉字蠅乃喰ものぢぢけり
百星

つぢぢ

つぢぢははらぢぢぢぢぢぢぢ
月下

いぢぢ

十月や金はくもゆも人もあす
尚白

えらへた

寺くの控儀さるるおほひぢぢぢ
初雨

よいぢぢぢ

ふひくは山姥とあぢく水鶏す
當歌

あぢぢ

吾かいでは格ふまわれ四門目さ
山川

せぢぢ

吾はいろふもわさもふく衛のぢぢ
青女

ぢぢんく

一鉢いかさふはぢぢぢぢぢぢ
其角

ぢぢぢぢぢ

七福神

寄 辨才天 簪

寄 子に川中ゆせん花₊ 琴風

寄 惠比壽 鯛

寄 朝笑くちくよくおつし 曰

寄 大黒 嵐

寄 亭の歌のまにまに 曰

寄 寿老人 鹿

寄 角長くむとんや 曰

寄 福祿壽杖

寄 婦らんの通照り 曰

寄 布袋袋蝶

寄 いやや蝶₊ 曰

寄 昆沙門 鉢

寄 ああ_{カフト}甲の目_{カフト} 曰

七小町

山本

あゝちやそむれがわいげん外 上

草紙洗

うそ草や枯くそもの戸がし 日

通

けりいあるんれいけや 吾れは 日

卒於彼女

おれけりりそはよあこらうい 日

園寺

やうし 小からをかくせ 結糸 日

鶴鶴

けりや肌よと痛う 利おの 日

清水

幸一 養り小町うらみ世 日

おおめつこおれをかうん

やうらちわかいそあはれ

足^サの魚や木瓜よ^サ別名まん木播越 山川

月乃夜

さうー是も月も月あゝと^サ脚^サや 日

園

幸の夜乃細工より行^サ楯^サの割^サ 日

雨乃夜

養^サよ^サ焼^サ香^サれと^サや^サう^サ様^サち 日

風の本

風とあゝれと^サゆ^サけ^サ敷^サの^サ脛^サ 日

寸敷

足^サす^サよ^サ尺^サ帯^サ刀^サも^サ行^サ少^サ尺^サ河^サ由^サ 日

音のそれ

つと^サや^サその^サ音^サの^サ足^サ跡^サも^サと^サる^サ 日

廻文

木の^サあれ^サ音^サや^サや^サ消^サ新^サの^サ音^サ ト宅

か^サう^サつ^サ流^サき^サう^サと^サれ^サつ^サし^サが 水花

味酒よ苦くしゆありねとて

立志

山柳の芽を採りてはゆらき

嵐雪

凡通ふ氷室のわいあるは

鋤立

庭いりてふ猪のひとつ子

立志

照月の雪れ柳本母の糸

嵐雪

橋いよわうくもそとを

鋤立

遠の急練の袷の袖のゆき
 立志
 黒く影をこころうらうらと色
 嵐雪
 汝乃目を風呂や杖のゆき
 鋤立
 又し雪をちりこころ別路
 立志
 外より痛くもぬかきこころ
 嵐雪
 うらめしくいふ獅子のゆき
 鋤立
 揺舞の舞の意をぬきいふ
 立志
 舞の舞進まがごとく秋のゆき
 嵐雪

秋の意をこころうらうらと色
 鋤立
 秋の意をこころうらうらと色
 立志
 ちりこころうらうらと色
 嵐雪
 甲の舞の意をこころうらうらと色
 鋤立
 痛くもぬかきこころうらうらと色
 立志
 おころうらうらと色
 嵐雪
 舞の意をこころうらうらと色
 鋤立
 足利の意をこころうらうらと色
 立志

下
 三十三

早に積^{ツル}後を^{ツル}節子^{ツル}ききも
 氷花
 多^{ツル}い合^{ツル}せ人^{ツル}も^{ツル}知^{ツル}れ縁
 李下
 多^{ツル}層^{ツル}に思^{ツル}い^{ツル}を^{ツル}珍^{ツル}と^{ツル}結^{ツル}成^{ツル}
 李下
 二
 月^{ツル}と^{ツル}こ^{ツル}さ^{ツル}ら^{ツル}ゆ^{ツル}ら^{ツル}水^{ツル}戸^{ツル}井^{ツル}下^{ツル}町
 嵐雪
 大^{ツル}急^{ツル}の^{ツル}流^{ツル}川^{ツル}隔^{ツル}て^{ツル}女^{ツル}競^{ツル}し
 李下
 上^{ツル}よ^{ツル}志^{ツル}さ^{ツル}ふ^{ツル}さ^{ツル}る^{ツル}も^{ツル}も^{ツル}
 氷花
 つ^{ツル}り^{ツル}勢^{ツル}に^{ツル}如^{ツル}い^{ツル}さ^{ツル}ら^{ツル}む^{ツル}合^{ツル}評^{ツル}
 嵐雪
 情^{ツル}子^{ツル}と^{ツル}ら^{ツル}い^{ツル}あ^{ツル}た^{ツル}ぬ^{ツル}石^{ツル}麻^{ツル}
 李下

胸^{ツル}を^{ツル}割^{ツル}か^{ツル}ら^{ツル}さ^{ツル}く^{ツル}も^{ツル}酒^{ツル}の^{ツル}罷^{ツル}
 氷花
 狂^{ツル}云^{ツル}飛^{ツル}る^{ツル}夜^{ツル}の^{ツル}蚊^{ツル}の^{ツル}其^{ツル}具^{ツル}
 李下
 狂^{ツル}ら^{ツル}り^{ツル}の^{ツル}町^{ツル}も^{ツル}人^{ツル}の^{ツル}涼^{ツル}らん
 李下
 か^{ツル}あ^{ツル}さ^{ツル}う^{ツル}た^{ツル}君^{ツル}も^{ツル}同^{ツル}舟^{ツル}
 嵐雪
 こ^{ツル}さ^{ツル}ら^{ツル}し^{ツル}も^{ツル}さ^{ツル}ら^{ツル}ゆ^{ツル}ら^{ツル}狂^{ツル}る^{ツル}舟^{ツル}
 李下
 日^{ツル}た^{ツル}ら^{ツル}ら^{ツル}も^{ツル}も^{ツル}好^{ツル}む^{ツル}強^{ツル}え^{ツル}袖^{ツル}
 氷花
 名^{ツル}高^{ツル}に^{ツル}沖^{ツル}煙^{ツル}す^{ツル}人^{ツル}の^{ツル}好^{ツル}む^{ツル}
 嵐雪
 候^{ツル}物^{ツル}も^{ツル}好^{ツル}む^{ツル}を^{ツル}狂^{ツル}ら^{ツル}ら^{ツル}ら^{ツル}袋^{ツル}
 李下

若くは十枝の齋と信じて

同

齋敷^{イカス}かゝる 珍^{メカシ}なれ^カ様^{サマ}多^ク

立吟

仙^{セン}真^{マコト}の^ノ来^キつ^ツて^テも^モろ^ロの^ノ相^{アヒ}成^{ナリ}

嵐雪

近^{チカ}き^キも^モろ^ロの^ノ心^{ココロ}ハ^ハ禪^{ゼン}一^{イツ}乃^ノ魂^{タマ}

立吟

盗^{ツク}り^リわ^ワて^テ嵐^{ハル}を^ヲい^イく^ク逆^{サカ}刺^{サシ}す

嵐雪

使^シ合^{アヒ}ち^チを^ヲす^スり^リ若^{ニホ}れ^レを^ヲ乞^ヒ

立吟

あ^アら^ラい^イと^トく^ク子^コ持^ヂの^ノ母^{ハハ}と^トす^ス

嵐雪

か^カゝ^カ麻^マ粒^{リツ}を^ヲい^イく^ク御^ミ油^ユの^ノ一^{イツ}と^トす

立吟

ま^マほ^ホく^クれ^レと^トあ^アく^クか^カれ^レ斬^キり^リ

嵐雪

露^{ツキ}拾^ヒり^リす^スる^ルま^マふ^フれ^レる^ル麻^マ

立吟

花^{ハナ}よ^ヨつ^ツり^リ貝^{カイ}摺^{スリ}積^{ツミ}を^ヲつ^ツり^リい^イふ

嵐雪

春^{ハル}風^{カゼ}白^{シロ}き^キ酒^{サケ}の^ノ香^カに^ニは

立吟

次^{ツギ}色^{イロ}の^ノあ^アを^ヲか^カき^キわ^ワて

同

いつ^{イツ}く^クれ^レ帰^キり^リれ^レと^トわ^ワり

嵐雪

海^{ウミ}を^ヲす^スり^リあ^アき^キと^トに^ニい^イら^ラぬ

立吟

す^スま^マの^ノこ^コゝ^コを^ヲと^トく^クと^ト村^{ムラ}

嵐雪

小新巻とて城の秋多あれ二二尺 立吟
 椽あつとくれ何のまを打 虎書
 垣車月おのよきたに後 立吟
 市れをよつく品れ昆布賣 虎書
 急所もわがぶくれ鼓ら 立吟
 翠山屋をて凡月のん志下る 虎書
 油蛇い誰かまをさかあつ 立吟
 鳴りれ精進や志れまきけ 虎書

ちりあひもたき 傾城の気 立吟
 形義あといひさうれ歌 曰
 狐多よきあれをまあし 虎書
 七のく乃^{カハ子}見より 曰
 不科乃子のも水志あ 立吟
 梅山以乃やん^ル 虎書

百花

名よわくはまきよわくは
 あつたれはきりし塵をよれ
 切花ようせむかろと念え
 園のつらに目を聴かす
 嵐機聴矢削萩の月
 田為さしりさ川の連糸

菊花
 萱花
 菊花
 菊花
 菊花

機娘よく態非凡お察入れりせ
 常一花後も明りの新糸
 言れおとさぬとては持けき
 風場はれれ申の移り香
 病めるとてはれは涼と念れ上
 いらつやふれ乃衣すもす如
 切花よ 人よらの掛子あは
 客よ 色は乃あはしやうさ

菊花
 萱花
 菊花
 菊花
 菊花
 菊花
 菊花
 菊花

芥の香に香れ丸ウツキの沃海ウツキ
 機布ハタらしむ新の海ウツキ西ウツキ
 水山ウツキよ妹ウツキうらぬ裏ウツキあけり
 柳ウツキの系ウツキエウツキけり湯ウツキ肌ウツキうけり
 との程ウツキちやや新ウツキ家のウツキ間ウツキ
 蕨ウツキの辞ウツキよウツキ雪ウツキ中ウツキをウツキこウツキさウツキる
 嵐雪 菊峯 笠凸 石花 菊峯 尚古

其角

美れ香や雞ウツキわウツキ籠ウツキうウツキはウツキえ
 萬もウツキ後ウツキをウツキわウツキらウツキしウツキ山ウツキ新ウツキあウツキね
 東ウツキさウツキるウツキもウツキ月ウツキさウツキらウツキんウツキ高ウツキさウツキら
 中ウツキ一ウツキ滴ウツキよウツキらウツキらウツキ雪ウツキれウツキ飯ウツキ
 そウツキりウツキくウツキ肌ウツキのウツキ瘡ウツキもウツキ冷ウツキ風ウツキり
 拭ウツキの上ウツキさウツキくウツキ行ウツキぬウツキらウツキしウツキ板
 嵐雪 其角 百里 百里

大年や三の目 喜れあらはれ
 増よと呼く 一鉢の音
 うつしいきうきうを拾ふ 破遊
 沖の子日は海行を川
 玉より難はい ちあはれ都
 塚のらうも也 下 輪を花
 を傍のてらふ ねる春の
 柳 雲の石よ 袖はねる

万石
 万石
 万石
 万石
 万石
 万石
 万石
 万石
 万石
 万石

舟よ 酔 鞆よ 膳 世あら
 骨の 依 しく 流まよ ち
 丘 宮よ あをぬ 洞し ころか
 芳野れ 唐月 かわり けき
 餅 花も やと 爆 け ちの 春
 ね 糸に ころ 結子 せく 也

万石
 万石
 万石
 万石
 万石
 万石
 万石
 万石
 万石

二十回我流よりわけて治り
 暮^{ジヨ}頼^ヨ麩^{マニ}すゆき月夜^{ツキヨ}の
 花の文^{フナ}醒^サ弁^{ヘン}解^ゲし書^シ思^シめ
 二 ま^マあ^アう^ウ唐^{カラ}人^{ニン}天^{テン}穿^{セン}乃^ノ晴^{ハレ}
 衣^イ交^{コウ}差^サや肉^{ニク}津^{ジン}同^{ドウ}も立^タつ^ツ糸^{イト}
 賭^{カケ}双^{ソウ}六^{ロク}は^ハ宿^{シュク}の^ノあ^ア打^{ウチ}ツ
 腰^{コシ}支^ゼを^ヲ穿^スに^ニ借^カら^ラ後^{ノチ}向^{ムカ}
 ろ^ロて^テか^カら^ラみ^ミ人^{ニン}こ^コし^シて

花名
 秀和
 舟竹
 舟竹
 秀和
 舟竹
 舟竹
 秀和
 舟竹

形^{カタチ}尾^ビ乃^ノ勢^セの^ノ人^{ニン}や^ヤ水^{ミヅ}
 軼^{ヒカツキ}せ^セし^シさ^サつ^ツそ^ソ乃^ノ之^ノれ
 壹^{イツ}冬^{フユ}位^イも^モう^ウは^ハ海^{ウミ}邊^ヘら
 踏^{フミ}ぬ^ル男^{オトコ}せん^ン乃^ノ少^{オウ}男^{オトコ}
 け^ケら^ラし^シる^ルけ^ケし^シる^ルけ^ケし^シる^ル
 お^オ半^{ハン}さ^サす^スお^オい^イや^ヤれ^レる^ル鬼^{オニ}
 節^{フシ}季^キの^ノ此^{コノ}の^ノ州^{シュウ}の^ノよ^ヨも^モも^モも^モ
 膳^テ担^{タン}お^オろ^ロく^クた^タを^ヲ嚙^{カム}か^カ

舟竹
 舟竹
 秀和
 舟竹
 舟竹
 舟竹
 舟竹
 舟竹

銀乃シロガネもくし月堂を佩ツル
 ちりり身を人の中ツル
 猫好乃く路程多れは也
 水汲何れ好味年うけ
 神子月うらを気盤
 空乃のそ乃流神
 秀和
 舟竹
 嵐吉
 秀和
 嵐吉
 舟竹

寒陽堂
 月下

輝もくし河やまもくしあのみ
 呼もくの門の子ウロ愛子カハラ之笑
 冬麓ルコカハマツト山劇人う都并く
 雪草くくうらと夕乃月
 賞焼ハ鯨のを腸亦松守
 秋のかくきもくしき
 秀和
 舟竹
 嵐吉
 月下
 嵐吉
 舟竹

芭蕉翁門外書目録

子卯之里	其角輯 二冊	丙寅記	凡瀑集 一冊
續子卯之里	日輯 二冊	新の家	其角輯 一冊
花法見	日輯 二冊	續花法見	湖十輯 二冊
楚志袋	嵐雪輯 二冊	喜乃日	越人 一冊
蛙あし袋	芭蕉其角 素堂仙化輯 一冊	柿 庭	宗瑞 咫尺 一冊
新二百歌	其角輯 一冊	長樂寺十句	丈石 一冊
後集摺	凉危輯 二冊	千載堂百首仙集丈石	五冊
批階小傘	初心仕候 調宝殿子集記 一冊	詠詠書後目録	三冊

皇都書林

京堀川通錦小路上町

西村市郎右衛門藏版

